

豊庄だより



第 765 号 2023 年 7 月 10 日

宮沢賢治は、「雨にも負けず、風にも負けず・・・」と詠みましたが、最近の天候の激しい変化には、負けてしまいそうです。これも人間が招いた気象変動のせいかもしれませんが、大雨・洪水や熱中症には注意をしていきましょう。

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

さて、先週の金曜日は 7 月 7 日でした。保育園では七夕・誕生会を行いました。午前中は激しい雨に遭いましたが、午後になると、収まって来てほっとしました。これは毎年思うのですが、「なぜ、七夕を 7 月 7 日にするので



しょう?」。私が幼少のころは、七夕は 8 月 7 日行っていました。8 月 7 日の前後は、梅雨が明け、毎日晴天が続く(夕立はありましたが)、夜になると満天の星を見ることができました。私は、全国どこでも 8 月 7 日に七夕は行うものだと思っていました。しかし、福岡市を始め、都会では 7 月 7 日に行っていました(幼いころの記憶は定かではありませんが、恐らくそうでしょう)。なぜそうなっているかは、考えもせずに大人になり、ふと、調べてみると、諸説はありますが、都会では新暦を、

田舎では旧暦を使っていたためようです。二つの暦は、およそ 1 カ月の違いがあり、農業が主要産業であった農村では、長く旧暦を生活の中に取り入れていたためにおこった現象ではないかと思われます。私の考えは、季節と日にちが合致する暦(こよみ)にするのが適当と思っています。

話が暦になりましたが、本題の 7 月誕生会・七夕について書きます。7 月の誕生者は 14 人でした。いつものように誕生者のベストショットを撮るためカメラを構えました。6 月誕生会から 2 週間。14 人の写真を撮るにはちょっと期間が短すぎました。それでもなんとか誕生会の前日までに終了させることができました。ほっとしました。

誕生会・七夕は、6 月誕生会と同様に、全クラス合同で行いました。全クラスが一堂に会しての会は、やはりいいものです。また、どこで練習を重ねて来たのか不明ですが、「豊庄劇団」の「織姫と彦星」の演技は熱演でした。3 年ぶりの演技を見て、感動しました。



北風と太陽の話。

皆さんもご存じの「北風と太陽」のお話。実は由来をさかのぼると紀元前からある寓話なのですが、その紀元前の時代からマネジメントの基本として伝えられているお話です。そんな昔からある程、人間の本質に根差しています。そしてこのお話は子育てにおいても非常に重要な教訓を与えてくれます。

「北風でコートを吹き飛ばすのではなく、太陽で暑くし自分で脱がせる」これが意味するのは、「行動させたいときは強制するのではなく、自発的に行動するように環境を作る」です。強制も悪い事では無く、「短期的に成果をだす」ためには強力な道具でもあります。『締め切りが明日だけど、自由な仕事の進め方でいいし、自由に帰っていいよ』とはいかないので、そういう時は『終わるまで帰っちゃダメ！こうしてあしなさい！』と強制が必要です。少々であれば互いの疲労も過度にはならず、関係性もこじれにくい上に短期間で成果を出せる便利なものです(細かく強制するマネジメントを専門用語でマイクロマネジメントと言います)。でも長期間行くと互いが疲れてしまいます。

では普段は(長期的には)どうすればいいかと言うと、太陽のように「人が動きだす環境作り」をするのが良いです。例として、製造現場での品質管理において「ポカ避け」という考え方があります。製品を作った時のミスが生じたときの対策として、従業員に「注意しろ！」と言うのは愚策で、「注意せずともミスが無くなる対策」が良策という話です。例えば「上下対称のように見える部品の設置の間違いが起こる」と言う時に、「上」の表示を書いたり正しい設置の見本を出したり「注意するように！」と呼びかけたりするだけでは不十分です(「できなかったら減給」は最もダメな方法です)。これらは人に注意を強制する「北風」にすぎません。最も良いのは「向きを間違えると設置できない」ようにすることです。そのためにくぼみや突起をつけることまたはその突起などを「ポカ避け」と言います。間違った設置が出来ず、正しい設置だけできるようになる環境を整えるという「太陽」の例です。でもポカ避けの実装にはコストや労力がかかってしまいます。しかし規模が大きかったり長い目で見たらすれば無視でき、非常に割が良いものとなります(問題は中小規模や短期的なものの場合なのですが…管理者の腕の見せ所です)。

この北風と太陽の話は中国にも似たようなものがあり、「犄角殺牛:角を矯めて牛を殺す」と言うことわざがあります。「良い物や人の小さな欠点を強制(矯正)して修正しようとする」ということわざです。「欠点を修正する」のではなく「欠点が修正される環境にする」のが理想です(あるいは(客観的に見て)大きな問題が無ければほっておく)その欠点すらもその人を形作っている物の一つだからです)。

どちらにも言えるのは「人に強制させるのは愚策」という事です。この考えは大人だけでなく子どもに対しても重要です。子どもに言う事を聞かせるとき「あーしなさい、こうしなさい」と言うのは基本的には愚策です(注意点として「してはいけない事」を教えるのは重要なので最初は必要です)。本当に必要なのは「自発的に行動させる」です。この時に「褒美や罰則」で自発を促してはいけません。「～したら～してあげるよ」「～しなかったらご飯抜き」と言うのは NG です。目先の利益がないと動かない人間となってしまいます。どうするのが良いかと言うと「～してくれたら私は嬉しいから～してくれないかな？」とお願いすることです(「人を喜ばせることが自分の幸せにつながる」という前提をなんとなく知ってはいなくてもはいけません)。「お願いを聞きたくない！」と言うのであればそれはどうしてなのか聞きましょう。ともかくも「～したいなあ」と思わせることが人を動かすためには必要です。これは大人も子どもも同じです。でも「今からよーいどんでやれ！」は無理です。強制させないようにするためには知識・知恵・経験が必要です。そのためには「お勉強」と「お勉強の内容を現実に落とし込む勉強」と「練習や経験者への相談」が必要です。色んな情報に耳を傾けてみてください。

と、以上が子育てしたこともない若輩者の戯言ではありますが、少し気にかけてみてください。

こういったことを大学の一般教養とかで習ったりしました。私が行った理系の大学では一般教養の科目はともすれば馬鹿にされていたのか「パンキョー」と呼ばれていて適当に楽なものを取る人が多かったのですが、社会に出てみると一般教養の方が重要なのでは？と思つてます。

※ちょっと難しい内容になったかもしれませんが、最後までお読みください。このページの文責は舜です。余白ができましたので、絵本の紹介です。『たなばた』、文章もいいのですが、初山滋さんの画が何といっても素晴らしい。

